

入 選

わたし達のねこをすくうために

四年 鈴木美華子

わたし達の世界にいるねこは、家で人にかわいがられてのんびりとすごすことのできるねこばかりではありません。中にはおなかをすかせながら、病気を持ったまま、外の世界で弱肉強食の生活をすごさなければならぬねこもいます。そして人にかわれて家の中で生活しているねこの中でも、数がふえすぎることではえさがたりず取り合いになったり、世話をされずにひどいかんきょうのまま生きていかなければいけぬねこもいます。このようにふえすぎてかい主が育てきれなくなってしまう事を「多頭し育ほうかい」と言うそうです。家の中でも苦しい生活をしなければならぬねこもたくさんいるのです。

このようなじょうきょうのねこを助けてくれる人がいます。保ごねこだん体です。わたしの家がかつていたねこも「多頭し育ほうかい」から助け出された「ほごねこ」です。この子に出会えたのも、保ごねこだん体が開いてくれた「じょうと会」でした。保ごねこだん体の方々は、ねこをすくってくれた命のおん人であり、わたしとねこを出会わせてくれた方々でもあります。とても感しゃしています。

保ごだん体の仕事は、ねこをすくい出す活動だけではありません。保ごした後の世話はもちろん、病気になってるねこは病院につれて行ってちりょうをします。そして人になれていないねこにはたくさんの愛じょうを注いで人間がこわくないことを教えます。全てはねこ達に新しいかい主と、ずっとくらせる幸せな家を見つけてもらうためです。保ごだん体の仕事を知る中で、わたしが一番おどろいたのは、この大変な仕事全体がボランティアで行われているということでした。つまりおきゅう料をもらっていないのです。ねこ達の幸せのためにむじょうの愛をねこにわたしてくれる方々を、わたしはとてもそんけいしています。

世の中にはねこをすてたり、えさをあげないなど、いわゆるぎやく待をする人もいます。生き物の命を大切にしない行動は、ねこのためにがんばっている保ごだん体の活動をじゃまするものです。ねこ達は幸せに生きるために、人の所にやってくるのだとわたしは思います。保ごだん体のみなさんへの感しゃを忘れずに、わたしはペットを大事に育てたいです。そして世界にいる全てのねこが幸せにくらせる、やさしい世の中が来ることをねがっています。